

# ぱれっと

2009  
1月  
No.113

## ■ 目次 ■

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| すぽっとらいと | 世代を超えて武術太極拳の普及を目指す<br>宮城県武術太極拳連盟 |
| アラカルト   | “災害”を超えて<br>いま、かんがえる いま、つながる     |
| サポセン日記  | サポセン・シアターを3倍面白くする企画              |
| イベント紹介  | 1月のイベント紹介                        |



■出店団体  
アマニ・ヤ・アフリカ、あーすらいふ仙台、麦の会コッペ

## 一日限りの 「CARES Café」オープン！

11月のとある日曜日、サポセン1階は芳しい香りに包まれ、いい雰囲気。メニューは、フェアトレードのコーヒーやチャイ、クッキー、東北産小麦100%のパンなど…

あれ？新しい制服？スタッフは、全員ピンクのお揃いTシャツ姿。なんだか普段と違ったサポセン。ちょっと、ほっとできるひとときでした。

# すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

## 世代を超えて武術太極拳の普及を目指す 宮城県武術太極拳連盟

仙台市市民活動サポートセンターを開館当初から利用している「宮城県武術太極拳連盟」。11月末に第16回宮城県武術太極拳選手権大会を終えられたところで、事務局長の鹿島眞理さん、事務局次長の齋藤禎子さん、運営委員長の高橋マリ子さんに、サポセンのこと、団体運営の秘訣などについてお話をうかがいました。



▲左から高橋さん、鹿島さん、齋藤さん

### ● 太極拳への関心の高まり

呼吸を重視しながらゆるやかに動く太極拳は、中国の伝統的な武術の一種目で、日本でも愛好家の多いスポーツです。宮城県内でも数多くの団体が太極拳教室を開いています。健康体操としてのイメージが強い太極拳ですが、1990年の北京アジア競技大会をきっかけに、競技スポーツとしての関心が増し、全国的に大会や演武交流会が開催されるようになりました。

このような背景の中、すでに設立していた全国組織である（社）日本武術太極拳連盟の意向をうけ、1991年から宮城県武術太極拳連盟（以下、県連盟）の活動が始まりました。宮城県内における武術太極拳※の普及を図ることを目的に設立した県連盟は、現在県内の11の団体が加盟し、連携しながら活動を行っています。

※太極拳と長拳、南拳など各種の中国武術を総称して「武術太極拳」の名称で普及と振興を進めています。

### ● 成長とともに組織も変わる

県連盟の基礎は、加盟団体のネットワークや人材を持ち寄り作られてきました。そして、設立当初は団体間の交流が主だった活動も、太極拳の普及とともに、大会の運営から技術指導まで多岐にわたるようになりました。

現在、県連盟が行っている事業は、太極拳やカンフー、長拳など各種講習会の開催、技能検定の実施、選手の強化指導、審判研修会などです。毎月のスケジュールは常にぎっしりです。これら多様化する事業を運営するために、県連盟では2003年に6つの専門委員会を設置しました。事業内容に応じて役割分担をしながら進めています。

### ● 人材育成のコツ

多くの事業を運営するためには、人員の配置などまだまだ改善すべきことはあります。また、事務局スタッフの世代交代も課題の一つです。次の世代の人たちに運営に関わってもらうための工夫としては、いきなり大きな役割を与えるのではなく、少しずつ出来ることから手伝ってもらうことにしています。

「大会など行事の際には、必ずお世話係が必要になります。そんな時、スタッフとして一緒にできることから手伝ってもらうのです。少しずつ関わってもらうことで、ずいぶん意識が変わってきているように思います。最近では、事務局の仕事も手伝ってもらえるようになったんですよ」と事務局長の鹿島さん。何度か行事をこなし、経験を重ねることが結果的には人材育成につながっていくと考えています。

### ● サポセンの達人

サポセンを開館当初から利用している県連盟のみなさんは、サポセン活用の達人です。ロッカー活動報告書の中で、サポセンでの一日がこんなふうに紹介されていました。

「県連盟の誰かが5階交流サロンでちょこっと仕事をしていると、そこへ別の誰かがちょこっと来て仕事をする。別々の内容だったのに、いつの間にか打合せして、ホッとして、お疲れ様」

事務所を持たない団体ですが、サポセンが会員同士の中継点となり、スムーズな事務局運営が行われています。

達人は、サポセンをこんなふうに利用しています。

## 団体紹介

### 宮城県武術太極拳連盟

宮城県内各地で太極拳を愛好する団体が、共に学び、交流を深めながら、太極拳の普及・発展を図るとともに、県民のスポーツの振興、健康増進を目的とし、活動を行っている。

#### <団体連絡・問合せ先>

仙台市青葉区新坂町1-26 鹿島眞理方（事務局）

TEL/FAX 022-234-3673

ホームページURL <http://www.mni.ne.jp/~miyagitaiji/>

E-mail [miyagi-taiji@tea.odn.ne.jp](mailto:miyagi-taiji@tea.odn.ne.jp)



▲カンフー長拳教室の様子

#### 交流サロン

打合せやちょっとした作業に使用。重要な会議や大事な書類を扱う場合は、貸室を借りるなど使いわけている。みんなで使うフリースペースだから、マナーよく使用することを心がけている。

#### ロッカー

長年の活動で増え続ける書類や事務用品はロッカーに収納。大サイズのロッカーでは収まりきらずにいたところ、昨年从小サイズとの2個使いが可能になったことで大助かり。会員同士で書類や荷物のやり取りもロッカーを使って行っている。

#### 立地と開館時間

会議には、会員が県内各地から集まるので仙台市中心部にあるサポセンは大変便利。また、働いている人が多いため、会議はどうしても夜に集中しがち。サポセンは開館時間が夜10時までなので、時間に追われず会議が行える。

### ● ジュニアからシニアまで

県連盟に加入している団体の教室では、現在5歳～86歳までの幅広い年齢層の方たちが太極拳に親しんでいます。体に無理な負担をかけずに、体力にあわせて行うことのできる太極拳は、年齢、性別を問わず誰でも楽しむことができるスポーツです。シニア層にとっては、健康効果も期待され、一生を通じて楽しむことができるので生きがいづくりにもなります。

また、ジュニア層にとっては、カンフーなどの中国武術はあこがれのスポーツです。国際的な普及も進んでおり競技スポーツとしても注目されています。県連盟では、国際大会にも通用する競技選手の強化を図るため、ジュニア育成にも力をいれています。

「世代を超えて楽しめる太極拳の魅力を、もっと多くの人々に伝える」それが、県連盟の役割の一つです。宮城県は仙台市近郊に団体が集中していることから、活動拠点のない市町村への普及活動にも力をいれています。

生涯スポーツとしての太極拳の普及と、競技スポーツとしての選手育成の二つを大きな柱として、県連盟の活動は続きます。



#### 取材を終えて…

「継続は力なり」みなさんのお話をうかがって、そんな言葉を思い出しました。太極拳が好きで楽しみながら活動していること。継続の秘訣はそこにあるのではと感じました。

（担当：小松 州子）

#### ● 三人が語る太極拳の魅力

今回お話をうかがった皆さんは、太極拳を始めて15年から30年というキャリアの持ち主です。

<鹿島さん>

初めて太極拳を見た時は、今までに出会ったことのない動きに驚きました。長年続けていても、毎年違う発見があります。

<高橋さん>

私は50代後半で太極拳を始めました。何歳からでも始められます。世代を超えて、同じ事を同じ場で出来ることも魅力です。

<齋藤さん>

多くのスポーツと違うところは、人と競わないこと。自分なりに楽しめる要素が、太極拳にはいっぱい詰まっています。

# アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

## “災害”を超えて

## いま、かんがえる いま、つながる

せんだいCARES 2008タイアップ企画



### 『災害発生 その時NPOができること』

2008年11月16日(日) 13:30~17:00

### 第1部 パネルディスカッション

高い確率で発生が予想される宮城県沖地震。被災したその時、私たちはどのような課題をかかえるのか。地域で活動するNPOは何をすべきか。被災地で実際に支援活動を行ってきた方々から、過去の被災地での事例を学びました。

#### ■ “よそ者” がつながりをつくる

浦野 愛さん

(NPO法人レスキューストックヤード 事務局長)

レスキューストックヤードは名古屋にある災害救援のNPOで、阪神・淡路大震災の被災者支援をきっかけに設立された団体です。

今回の岩手・宮城内陸地震では、「何か役に立てることがあればお手伝いしたい」という思いをもった人たちが、地域の中に沢山いらっしゃいました。私たちのような県外支援者である「よそ者」の役割は、その思いを「行動」に変えていくお手伝いをするにありたいと思います。

また、このような方々が日常の地域活動を通じて横のつながりを強め、災害時に何ができるのかを普段から考えて、互いに共有しておくことが大切だと思います。この繋がりが災害時に機能すれば、被災者の方の困りごとに対応できることの幅が広がり、被災者の方へ早く支援が届けられる体制が整っていくと思います。

#### ■NPOとの連携で多くのニーズに素早く対応

北川 進さん

(みやぎボランティア総合センター 所長)

私たち社会福祉協議会は、行政との連携で公的な部分を担いながら、災害ボランティアセンターを作っていくという立場にあります。それとは別に支援者を受け入れる拠点として、自然発生的に災害ボランティアセンターが作られることもあり得ます。私たちは、このような拠点とも情報共有を行いながら連携していきたいと考えています。

災害時には、地域に密着した活動をしている人々を災害ボランティアセンターの窓口につないでいくということが求められます。そういった意味では、NPOとの連携が必要になり、幅広い支



援活動を行うためにも、NPOの方々にご協力をお願いしたいと思っています。

#### ■被災者は避難所だけにいるのではない

大場 浩徳さん

(くりこま耕英震災復興の会 会長)

栗駒耕英の地域住民が一丸となって、震災の被害から再び立ち上がり、耕英に帰ることを目的に復興の会ができました。会の仕事のひとつは、地域のまとめ役です。被災するとほとんどの人が仮設住宅に入るだろうと思われていますが、実際は自宅避難者もいて、十分な支援や情報が自宅避難者には届いていません。私たちは、自宅避難者と避難所生活者として支援に差が出ないように、行政に対して働きかけています。

こういった行政との交渉は、NPOのアドバイスが無ければ出来ませんでした。私たちが山へ帰れるよう、また避難生活が快適になるよう、NPOの方々には引き続きご支援いただいています。

#### コーディネーター 黒澤 司さんより

(災害救援・復旧・復興アドバイザー)

仙台という100万人規模の都市で災害が起こった場合、NPOができることを考えてきたわけですが、多種多様な活動の連携が重要だということを確認できたと思います。

都市災害の場合、人命救助の95%は自主的な支援によって行われています。特に、都市部では外国人や障がい者の方など多様なニーズが予想されます。また、福祉施設のライフラインの問題、帰宅難民の問題などもあります。自主防災組織というのは特に被災都市の復興には重要な役割を果たすのだと思います。

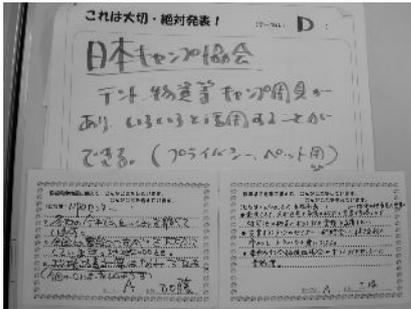
## 第2部 ワークショップ

参加者・パネリスト・コーディネーターの方々全員が6つのグループにわかれ、宮城県沖地震を想定して「地震が起きた時に何が不安か」「どのような備えを行ったらよいか」について考え、意見を出し合いました。

参加者同士、それぞれの分野や活動テーマを超えて、「災害」というキーワードで考える機会を持つことができ、これからの備えや連携などのヒントがたくさん得られるワークショップとなりました。



「災害に備えて、こんなことをしています、考えています」それぞれのグループで話し合った結果を、全体で共有しました。当日出た意見を、抜粋してご紹介します。



### ●コミュニティづくりを大切に

- ・普段からの近所づきあいを大切に
- ・高齢者を引きこもらせない方法を考える
- ・地域の要援護者を把握しておく  
(高齢者・障がい者も含めて)
- ・常に地域全体のまとまりを大事にして、地域づくりをしていく

### ●情報発信・情報収集

- ・行政・社協から地域への情報発信を行い、窓口を明確にしておく
- ・個人のホームページやブログで災害情報を発信する
- ・災害伝言ダイヤルを活用する

### ●組織同士のネットワークづくり

- ・地域のリーダー同士で組織間の連携ができるようにネットワークづくりをする
- ・学生のボランティアネットワークをつくる

### ●個人の備えも大切

- ・防災用品、非常用持ち出し袋を準備する
- ・各自、備蓄を行い、有効活用する(レジャーで使っているテントなどのキャンプ用具なども活用できるかもしれない)
- ・家庭・企業・地域で食料、火などを自給できるような仕組みづくりをする
- ・被災者である自分が自分も守り、他の人を助けるという強い自立心をもつ

### ●経験者の知識をいかす

- ・過去の被災地における復興のための取り組みや、その経過報告を調べ、学んでおく
- ・災害の映像は、記録として残し伝えていく
- ・建物の崩壊時の対策、マスコミへの対応など専門知識を活用する

### ●啓蒙・啓発

- ・子どもへの防災教育の普及・開発
- ・啓蒙活動や声かけを行い市民・県民意識の向上を図る。

(担当:大石 俊輔・大西 千佳)

## CARES100人交流会

11月16日(日)17:30~  
市民活動シアター



交流会には、パネルディスカッションの参加者に加え、せんだいCARES参加団体、企業、行政の方々約60人が集いました。

黒澤センター長による非常食「アルファ米炊き出しセット」の調理デモンストレーションは、初めて見るという方も多く興味津々。今回は特製カレー風味で「特盛り!」「おかわり!」と注文が飛びかいとても好評でした。

いよいよお待ちかね、ショータイム。ホゴノプロフィスさんのジャグリングは、見事な技が決まるごとに大きな拍手。続いて登場したAnegoさんも華やかなステージを披露してくれました。

参加者100人とまではいきませんが、みなさん、そこかしこで名刺交換をする姿が見られ、日頃の想いをおおいに語り合い盛り上がった交流会となりました。  
(担当:菅野 祥子)

# サポセン日記



## サポセン・シアターを 3倍面白くする企画



8月より実施されている、「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」。今回はダイジェスト版として、8月～11月(前半)の企画をご報告します。

## 8月

アフリカの風。大地の香り。

～今日は1日アフリカ日和～ 主催:アマニ・アフリカ祭実行委員会

サポセンの地下がアフリカへ様変わり。会場内には、チャイの香りが立ち込め、いい香り～。壁にはところせましとアフリカの写真が並べられ、実行委員会スタッフも民族衣装に身を包み、普段のシアターとは違う雰囲気。  
マンカラという日本のおはじきのようなボードゲーム大会があったり、詩の朗読、アフリカン音楽ライブ&ダンスと、様々な催しものが実施されました。  
アフリカの写真をスライドショーで見ながら、音楽を聴き、体を動かしていると、本当にアフリカへ来た気分になってきます。アフリカという遠い異国の地へ思いを馳せながら、アフリカ日和の2日間でした。

## 9月

まちなか まるごと 絵本

主催:ハート&アート空間"BE I"

朝9時。早々と参加する親子がサポセンに到着。開始時刻になり、シアターで元気にご挨拶。今日の流れと注意点の説明を受け、さっそく一番町三丁目、四丁目の商店へ、材料探しに出発！  
10時過ぎ、少しずつ商店街へ出かけていたグループが、リサイクルペーパーや段ボールを集め、戻ってくると、いよいよオリジナル絵本の制作開始。お題は『はらぺこあおむし』。段ボールに、色とりどりのリサイクルペーパーを貼り付けて、絵本を作る。一緒に作るお父さんが、楽しそう。  
絵本完成！どれも、個性豊かで素晴らしい作品が出来上がりました。

## 10月

OtoOpresentsプロデュース公演7  
お父さんのための演技教室

主催:OtoOpresents

サポセンの地下に小学校の教室が登場！？  
今回は、小学校の放課後に行われているお父さん向けの演技教室を舞台にした、演劇の上演です。でもなんだかこの演劇、様子がおかしい。出演者は子どもから大人まで多種多様な構成。話を聞くと、一般公募の市民が参加しているのだそう。台本も、作者と出演者で作ったんですって。  
そんな事情を知っているからか、観ている私がセリフがつかえないか、最後まで演じられるのかハラハラドキドキ。でも、そんな心配を吹き飛ばすように、数ヶ月間の稽古の成果が発揮され、みんなのびのびと演技きり、大成功でした。

## 11月

三角フラスコ#30  
NO fear

主催:三角フラスコ

11月は、演劇2本立て。前半は、三角フラスコ#30「NO fear」。つぶれかけたボウリング場の隣に建つ食堂が舞台。先月は、小学校の教室だったのに、今回はさびれた食堂へと様変わり。同じ空間なのに、物が変わるだけで別の空間がシアターに表れる。これは、何度体験しても、不思議な気持ち…。  
「サポセン・シアターを3倍面白くする企画」も、この企画でいよいよ折り返し地点。これからも、演劇、ダンス、リーディングといろいろな企画が目白押し！毎月お祭り騒ぎだけど、本番を迎えるとそんな苦労も吹っ飛びます。今度は、どんなシアターを私たちにを見せてくれるんだろう。次の企画が待ち遠しいです。

(担当:内川 奈津子)

# イベント紹介

## 1 月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
1月8日(木) 18:30~21:00 (全6回)	新しい年にチャレンジ!! 手軽に学べる足裏やふくらはぎのケアを身につけて社会とのふれあいに!!	研修室 3	受講料2万 認定申請料1万 教材費7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場 Tel&Fax:022-223-9023 携帯:090-7564-9831 (森 照恵)
1月13日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「きっと分かり合える」 ~思春期の子どもとの接し方~	研修室 5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/index.html (石田えみ子)
1月24日(土) 14:00~16:30	「海外ロングステイ」セミナー タイ・チェンマイを拠点にアジア近隣国への旅を!!	セミナー ホール	500円 (事前申込必要)	ロングステイEcho会 Tel&Fax:022-293-5811 (清野榮志)
1月25日(日) 10:30~12:30	布ナプキンってどんなもの? さわってみよう! 聞いてみよう! 話してみよう!	研修室 3	500円 (布ナプ普及会 員無料) (事前申込必要)	布ナプ普及協会 Tel:022-248-2863 Fax:022-248-2864 (中村真実子)
1月31日(土) 13:30~15:30	「赤ちゃんに乾杯-家族・文化-」 乳幼児精神保健学会世界大会in横浜 に参加しての報告会	研修室 5	資料代200円 (事前申込必要)	乳幼児精神保健を学ぶ会 Tel&Fax:022-797-4372 (武田)

### サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

#### office-overプレゼンツ “INDEPENDENT” in 仙台

毎年11月に大阪で開催される最強の一人芝居フェス  
“INDEPENDENT”で出会った2本の作品、そこに津軽方言芝居が  
加わって、仙台の1月を暑くする3日間。

#### ●公演スケジュール

日時	14:00	19:30
1月22日(木)	—	◇
23日(金)	—	○
24日(土)	○	—

◇22日終演後ポストパフォーマンストークあり  
ゲスト:相内唯史 (in-dependent theatre)

- 料金 一般 前売2,000円 当日2,500円  
学生 前売1,500円 当日2,000円

#### ●チケット取扱

- プレイガイド(全券種あり)  
火星の庭、あべひげ、  
せんだい演劇工房10-BOX
- 予約  
WEB予約:CoRichチケットにて受付  
http://stage.corich.jp/



#### ●問合せ office-over

携帯:090-6221-9517 E-mail:officeover@gmail.com

#### <主催:office-over>

2001年設立。優れた舞台作品の創造・上演を目的として、役者活動を中心に舞台監督などのスタッフ派遣からプロデュース公演の実施まで総合的に舞台に関わることを行う。

### 仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

< 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983  
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

シニア専門相談 <無料/予約制/1組1時間程度>	シニア総合相談 <無料/先着5人/予約制>	シニア一般相談 <無料/予約は不要>
■1月10日(土) 10:00~18:00 今なら余裕を持って伝えられそう! 自分の子育て経験を、子供に関わる活動や子育て中のお父さんお母さんたちを支える活動にいかしてみませんか?	■1月22日(木) 13:00~20:00 定年退職後の経済面、健康づくり、生きがいづくりについて考えを整理してみませんか?	○平日・土曜日 10:00~20:00 ○日曜日・祝日 10:00~18:00 ◆休館日 毎週水曜日・12/29~1/3

# お知らせ ●○○

## NPOステップアップ講座その4 **団体PRの仕方** ～広報から始める、NPOの筋力トレーニング～

団体のPRの仕方を学び、会員・支援者の拡大や助成金獲得に活かす講座です。団体の自己分析の必要性や、呼びかける対象に合わせた表現の工夫などを学びます。

日時: 1月27日(火) 19:00～21:00  
会場: 仙台市市民活動サポートセンター  
セミナーホール  
講師: 加藤哲夫氏  
(特活せんだい・みやぎNPOセンター代表理事)  
参加費: 1,000円  
定員: 30名

(担当: 太田、大西、内川)

### ■お詫び

ぱれっと12月号(11月25日発行号)に掲載した、12月のイベント紹介(7p)の内容に間違いがありました。正しくは下記のとおりです。関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

<JRFA足市場の連絡先>

×誤 Tel&Fax: 022-281-0858

○正 Tel&Fax: 022-223-9023

## 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

● 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時  
日曜・祝日 / 午前9時～午後6時

● 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

**12/29～1/3 1/28 2/25**

## サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸室  
(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)  
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)
- 交流サロン  
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)  
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース  
インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン  
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。  
市民活動相談の受付や図書の見学、貸出も行っています。  
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室  
印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))  
コピー機(1枚10円)

## ■ 問い合わせ先 ■

発行: 仙台市市民活動サポートセンター  
(指定管理者: 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042  
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日: 2008年12月24日  
編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター  
編集人: 小松州子 葛西淳子 内川奈津子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



## 編集後記

- ◆「すぼとらいと」の取材でお話を伺った皆さんは、背筋がシャンとしていてカッコ良かった。2008年もカッコ良い方々とたくさん出会えて嬉しい年でした。(小松)
- ◆編集に関わって早1年。今年の紙面を振り返りつつ、さらにバージョンアップしたぱれっとをお届けできるよう頑張ります。ちと、気が早い年頭の計?(葛西)
- ◆毎年、年末になると実家から送られてくるリンゴ。これを食べると、1年の終わりが近づいたことに気付かれます。シャリシャリ…。毎日リンゴ三昧です。(内川)

## ■ 案内図 ■



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。  
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、  
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前  
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ  
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。  
お車や自転車でご来館される方は、  
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。  
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。  
指定管理期間: 2007年4月1日～2010年3月31日